

田んぼダムの整備状況

土地改良区名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	合計
栃木市土地改良区				
吹上東部地区	5 ha	10 ha	10 ha	25 ha
栃木市西部地区	-	10 ha	10 ha	20 ha
都賀町土地改良区				
赤津北部地区	5 ha	5 ha	10 ha	20 ha
赤津南部地区	-	8 ha	10 ha	18 ha
小倉堰土地改良区				
計	10 ha	33 ha	45 ha	88 ha

今年度は、昨年度と同じく栃木市土地改良区と都賀町土地改良区において、それぞれ20ha、新たに西方の巴波川上流地域の小倉堰土地改良区で5haの田んぼダムを整備する予定です。今後は、毎年新たに約50haの田んぼダムの整備を目指し、市街地北部の整備から徐々に市内全域に拡大していく予定です。

R2～R4の貯水量 計88ha(88,000㎡)は25mプール約282杯分に相当します!
 ※水田の深さは平均10cm深、プールは25m×12.5m×1m=312.5㎡で換算



スマート田んぼダムの自動給水栓

スマート田んぼダムの実証事業
 ～営農と防災のメリットを生かす～
 本市では、令和3年度から田んぼへの給水と排水の操作をパソコンやスマートフォンを利用し自動で行う「スマート田んぼダム」の実証事業に取り組んでいます。実証事業では、普通の田んぼ、従来型の田んぼダム、スマート田んぼダムの水管理労力、米の収穫量、用水量、排水量の比較検討を行います。昨年は、幸いにして梅雨や台風等による大雨がなかったため、排水データの分析は出来ませんでした。スマート田んぼにおける水管理労力が大幅に削減されたこと、事業に参加した農業者からの報告がありました。スマート田んぼダムは、田んぼに行かず

に自宅で操作ができるため、農業者の労力軽減や効率的な農業経営につながるよう推進していく予定です。



スマート田んぼダムの自動排水栓

排水

農業者の声

どこにいても田んぼの給水と排水の操作ができるので、大変助かります。若い農業者にも関心を持ってもらい、後継者育成につながれば良いと思います。

スマート田んぼダム利用農家
 栃木市川原田町 野尻徳雄さん

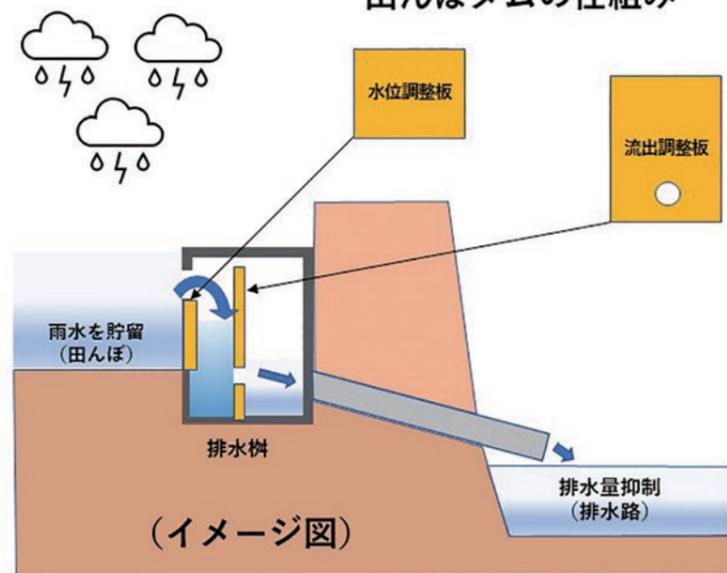
特集
 流域治水対策の一環で「田んぼダム」に取り組んでいます。

本市では、平成27年9月の関東・東北豪雨や令和元年10月の東日本台風により、市街地を中心に甚大な浸水被害が発生しました。そこで「流域治水」対策の一環として、令和2年度から主に市街地上流地域において「田んぼダム」の整備を開始しています。

問 農林整備課 ☎ (21) 2387



田んぼダムの仕組み



田んぼダムとは?
 通常の田んぼは、雨水がそのまま排水路に流れるため、特に大雨時には河川の下流の市街地等において浸水被害を引き起こすことがあります。しかし、もともと田んぼは水を貯める機能も持っています。その特性を活用するため、農業者の方のご協力を頂き、田んぼダムの装置を排水口に取付け、排水口を流出調整板で狭めて、雨水をゆっくりと流し、下流域の浸水被害の軽減を図ります。

従来型田んぼダムの整備状況

昨年度までに、栃木市土地改良区(巴波川上流地域の吹上東部地区と永野川上流地域の栃木市西部地区)において25ha、都賀町土地改良区(巴波川上流地域の赤津北部地区と赤津南部地区)において18ha、合計43haの田んぼダムの整備を実施しました。
 (←左ページ右上へ)



従来型田んぼダム(排水柵)



従来型田んぼダム(給水栓)

従来型田んぼダムは、手動で給・排水装置を操作し、流量を調整します。